

第4期高知市地域アクションプランの進捗状況確認資料

高 知 市 地 域 本 部

令和5年1月20日（金）

高知市地域アクションプランの進捗状況確認資料 (令和4年度第3四半期の実施状況と令和5年度の展開)

R5. 1. 20

高知市地域本部

1 地域アクションプランの令和4年度第3四半期の実施状況と令和5年度の展開（総括）

(1) 総評

令和4年度は、高知市地域の全22項目の地域アクションプランに関して、実行支援チームを編成し、既存の助成制度やアドバイザー制度の活用等により、経営基盤や基礎的インフラの強化を図り、それぞれの目標の達成に向けて、着実に取り組みを進めてきた。

地域産業クラスターの取り組みでは、竹材の集荷や加工・販売など、竹資源を活用したクラスター形成を目指してきたが、竹ハンドルに替わる新たな商品の開発に苦戦する状況が続いている。

農業分野では、土佐山地区のユズ関連商品について、新型コロナウイルス禍で業務用のニーズが低迷する中、「土佐山のユズ」の知名度アップと販売促進に向けて各種イベントへの参加を行った。

また、引き続き好調なインターネット販売に加え、都市圏での商談会への参加により売り上げを徐々に伸ばすとともに、ドローンによる防除の事業化へ向けた試行やユズ選果機、冷凍庫設備の稼働により、産地の維持や省力化による安定的な生産等を目指している。

高知県産イタダリの外商については、鏡地区を中心に県内各地に栽培産地の拡大を図り、生産者と食品メーカー等で設立した「高知県イタドリ生産普及販売促進協議会」において、生産・加工・販売が一体となったブランドの確立や組織体制の強化に取り組み、県内外への新たな販路開拓と体制の見直しが進んでいる。

観光・商工業分野では、桂浜・浦戸湾の一体となった取り組みを進めるべく、桂浜公園においては指定管理者による商業エリアのリノベーション工事が行われ、一部の施設はプレオープンとなり、今年度末のグランドオープンに向けて、引き続き設備改修工事等を行い、高知灯台周辺や椿の小径の整備にも取り組んでいる。

浦戸湾遊覧船に新たに桂浜発着とする遊覧コースについては、昨年4月に発生した知床遊覧船事故を踏まえ、さらなる安全運航のための確認を進めており、本年の運航開始に向けて取り組んでいる。

今後、高知市を中心とした34市町村による「れんけいこうち広域都市圏ビジョン」に登載された連携事業などの活用により、高知市を核とした県内各地への周遊観光の促進に取り組んでいく。

来年度は、1項目を削除することに伴い、1減となった全21項目の地域アクションプランに関して、今年度に引き続き実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、市、関係機関等と連携し、各種支援制度の活用などにより、それぞれの目標達成に向けて取り組みをさらに進めていく。

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び出発点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
			年	目標	実績	達成度		R4取組状況	現時点の進捗状況			
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	1 キュウリの生産販売対策の強化による産地振興 (高知市) 【実施主体】 ◎JA高知県(春野地区営農経済センター) ・JA高知県(春野地区胡瓜部会)	出荷量 10,345 t (R元園芸年度※) ※前年9月～8月	R2	11,878 t	10,172 t	B	1 生産の収量・品質向上対策 ・IPM技術の推進 ・収量向上・生産の効率化 ・GAPの推進 2 担い手の確保・育成 ・新規就農者の受入強化 ・経営管理意識の向上	1 生産の収量・品質向上対策 ・個別巡回(4～6月、10～12月) ・実証ほの病害虫調査(4～6月、10～12月) ・IPMに関する情報提供(黄化えそ対策協議会8月、JA広報誌5月) ・実証ほの環境測定、生育調査(4～6月、10～12月) ・IoPクラウドの利用推進(はるかぜ便り配布4～6月、10～12月) ・UECS対応型環境制御装置の導入支援(個別指導5月) ・GAPチェックシート分析(5～6月、12月) ・生産者GAP分析結果のフィードバック(キュウリ反省会7月) ・出荷場GAP点検(4・7・10月) ・出荷場GAP研修(11月) 2 担い手の確保・育成 ・研修から独立就農に向けた一連の支援により1名独立 ・高校でのガイダンスを実施(6月) ・オンラインや県内募集活動(6・8・10月) ・春野町新規就農者育成協議会の設立(5月) ・経営管理意識向上に向けた個別カウンセリング(4～8月、10～12月)	10,293 t (R4園芸年度)	・R4目標達成率: 102.9% ・対前年比: 99.3%	A (成果) ・省力化技術の確立(常温煙霧機、完全更新栽培) ・自主的なGAP点検の継続実施 ・新規就農者1名 ・経営管理意識の向上 (課題) ・省力化、環境制御技術の普及 ・黄化えそ病対策の徹底 ・新規就農者の確保 (今後の方向性) ・常温煙霧機の普及促進 ・新規就農受入体制の充実	1 生産の収量・品質向上対策 ・IPM技術の推進 ・収量向上・生産の効率化 ・GAPの推進 2 担い手の確保・育成 ・新規就農者の受入強化 ・経営管理意識の向上
			R3	10,000 t	10,364 t	A						
			R4	10,000 t	10,293 t	A						
			R5	12,700 t								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	2 グロリオサの生産販売対策の強化による産地振興 (高知市) 【実施主体】 ◎・JA高知市 ◎・JA高知市三里園芸部花卉部会	販売額 6.03億円 (R元園芸年度※) ※前年9月～8月	R2	6.3億円	5.0億円	C	1 流通・販売対策(輸出) ・球根養成ほ場の生育状況確認・栽培管理指導 ・輸出向け有望品種(ピンク系統)の球根数早期確保及び現地実証 ・輸出注文分欠品率調査 ・フロリアード2022(10年に1度オランダで開催される国際園芸博覧会)への出展 ・流通(輸出)に関するセミナーや講習会への参加	1 流通・販売対策(輸出) ・球根養成ほ場の生育状況確認・栽培管理指導(4月～) ・輸出向け有望品種(ピンク系統)の現地実証(1戸・6月～) ・フロリアード2022への出展(7月) ・仲卸業者との輸出版売会議(10月)	5.0億円(R4園芸年度) ・R4目標達成率:90.9% ・対前年比:106.4%	B	(成果) ・輸出本数 H27園芸年度:5.3万本 → R4園芸年度:-万本 ・輸出向け新品種である‘カプリソロゼ’出荷本数 R元園芸年度:- → R4園芸年度:2.9万本 (課題) ・新品種の作出 ・欠品しない計画的な輸出 (今後の方向性) ・現地実証の結果をふまえたピンク系統の評価 ・継続的な輸出版売会議の実施	1 流通・販売対策(輸出) ・球根養成ほ場の生育状況確認・栽培管理指導 ・輸出向け有望品種(ピンク系統)の球根数早期確保及び現地実証 ・輸出注文分欠品率調査 ・流通(輸出)に関するセミナーや講習会への参加
			R3	5.5億円	4.7億円	B						
			R4	5.5億円	5.0億円	B						
			R5	6.5億円								
	秀品率 52.7% (R元園芸年度) サザンウィンドのみ	R2	52.7%	45.8%	B	2 基本技術の徹底 ・病害虫対策(勉強会、個別巡回指導) ・産地全体での病害虫対策技術の共有 ・土壌分析結果検討会の実施	2 基本技術の徹底 ・病害虫対策(個別巡回指導) ・防虫ネット実証試験(1戸・7月～)	-%(3月集計予定) ・R4目標達成率:-% ・対前年同期比:-%	-	(成果) ・防虫ネットの重要性の認識につながった (課題) ・化学農薬のみに頼らない総合的な病害虫管理 (今後の方向性) ・実証試験の結果を報告し、部会全体での技術導入を図る	2 基本技術の徹底 ・病害虫対策(勉強会、個別巡回指導) ・産地全体での病害虫対策技術の共有 ・土壌分析結果検討会の実施	
		R3	50%	47.5%	B							
		R4	50%									
		R5	55%									
3 新ショウガの生産振興 (高知市) 【実施主体】 ◎・JA高知県(春野地区営農経済センター) ◎・JA高知県(春野地区生姜部会)	売上高 8.64億円 (R元園芸年度※) ※前年9月～8月	R2	8.70億円	8.21億円	B	1 品質向上対策 ・腐敗事故の原因解明、対策の検討 ・出荷場GAP点検 2 新たな栽培技術の検討 ・ハウス内環境データ分析を通じた栽培技術の確立 ・その他の技術と普及(環境測定装置の活用等)	1 品質向上対策 ・輸送温湿度調査(5月) ・出荷場GAP点検(4・7・10月、3回) ・目慣らし会における啓発(4・6月、2回) 2 新たな栽培技術の検討 ・ハウス内環境データ分析を通じた栽培技術の確立 ・生育調査(4月 5回) 掘り取り調査(5月) 実証結果に基づく栽培管理指導(部会 9・11月 2回)	7.73億円(R4園芸年度) ・R4目標達成率:87.8% ・対前年比:88.6% 前期・今期ともに豊作であったため供給過多となり、単価が約2割下がったため	B	(成果) ・調査の結果、予冷庫から市場までの輸送中の温度は、10～15℃で推移し、湿度は75～90%であることが分かった ・ハウス内環境のモニタリングにより、栽培管理が明らかになった (課題) ・腐敗原因の解明(今年度も事例が少なく究明に至らず) ・ハウスショウガに適した栽培管理の確立 (今後の方向性) ・収穫後から出荷までの品質保持管理の徹底 ・環境データや生育調査結果を基にした栽培管理基準の検討	1 品質向上対策 ・収穫後から出荷までの品質保持管理の徹底 ・出荷場GAP点検 2 新たな栽培技術の検討 ・ハウス内環境データ分析を通じた栽培技術の確立 ・その他の技術と普及(環境測定装置の活用等)	
		R3	8.70億円	8.72億円	A							
		R4	8.80億円	7.73億円	B							
		R5	8.70億円									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	4 ユズを核とした中山間農業の活性化 (高知市) 【実施主体】 ◎・高知市土佐山柚子生産組合 ◎・JA高知市 ◎・土佐山ファクトリー(協組) ◎・旭フレッシュ(株) ◎・高知市	ユズ販売額 1.6億円 (H30)	R2	1.6億円	1.7億円	A	1 安定生産 ・技術力向上、先端技術導入による安定生産 ・搾汁残渣加工施設によるユズ製油等の安定生産 2 生産基盤の維持 ・新改植の推進と担い手の確保・育成 ・担い手確保のビジョン作成	1 安定生産 ・青果出荷者向け現地検討会(6月) ・ドローン防除の実践(6月～10月) ・技術情報誌の発行(毎月) ・ブレ選果機の稼働(11月) 2 生産基盤の維持 ・産地協議会の開催・産地構造改革計画承認(4月) ・部会への果樹経営支援対策事業説明(4月) ・希望者向け果樹経営支援対策事業説明会(8月) ・担い手確保等の検討として土佐山地域振興課・JA高知市・高知農業改良普及所の3者打合せ(7～12月)	-億円(1月集計予定) ・R4目標達成率:-% ・対前年同期比:-%	-	(成果) ・スマート農業の実践 旭フレッシュ(株)によるドローン防除の作業受託試用実績:のべ8.4ha ブレ選果機使用選果:対応面積6.0ha (課題) 安定生産 ・基本技術の徹底 ・スマート農業の推進 ・青果出荷の拡大 生産基盤の維持 ・担い手の確保・育成 ・新植・改植の推進 (今後の方向性) ・スマート農業の推進(ドローン防除の事業化、ブレ選果機の稼働) ・担い手の確保・育成	1 安定生産 ・基本技術の徹底 ・スマート農業の推進 ・青果出荷の推進 2 生産基盤の維持 ・担い手の確保・育成 ・新植・改植の推進
			R3	1.7億円	1.4億円	C						
			R4	1.8億円								
			R5	1.9億円								
	ユズ精油等販売額 3,877万円 (H30)	R2	4,200万円	3,724万円	B	1 産地のブランド化 ・県外の大手香料メーカー等との契約更新 ・各イベントへの参加 ・各イベントへの参加 (土佐山のゆずイベント(イオンモール高知:10月)、土佐山ゆず祭り(とさのさと:11月)、まるごと高知土佐山ゆずイベント(まるごと高知:12月)) ・県庁・市役所での土佐山ユズ製品店内販売の実施(6月、7月、12月) ・SNS等を活用した情報発信 ・芳香蒸留水に関する高知大学との共同研究(R2年度～継続中)	1 産地のブランド化 ・県外の大手香料メーカー等との契約更新(10件) ・各イベントへの参加 (土佐山のゆずイベント(イオンモール高知:10月)、土佐山ゆず祭り(とさのさと:11月)、まるごと高知土佐山ゆずイベント(まるごと高知:12月)) ・県庁・市役所での土佐山ユズ製品店内販売の実施(6月、7月、12月) ・SNS等を活用した情報発信 ・芳香蒸留水に関する高知大学との共同研究(R2年度～継続中)	904.9万円(10月末時点) ・R4目標達成率:23.4% ・対前年同期比:60.5% コロナ感染再拡大による中国への化粧品の輸出減の影響で主な取引先である香料メーカーへの納品量が減ったため	D	(成果) ・県外の大手香料メーカー等との契約更新10件 (課題) ・土佐山産ユズの知名度向上及びブランド化 ・販売先の確保 (今後の方向性) ・SNS等を活用した情報発信 ・ユズ果汁、ユズオイル、芳香蒸留水の販売先拡大	1 産地のブランド化 ・県外の大手香料メーカー等との契約更新 ・各イベントへの参加 ・販売先の拡大 ・芳香蒸留水に関する高知大学との共同研究	
		R3	4,440万円	3032.7万円	D							
		R4	4,650万円									
		R5	4,900万円									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業・林業	5 四方竹のブランド化による中山間地域の振興(高知市) 【実施主体】 ◎・JA高知市特産部会(七ツ洲竹加工組合、土佐山四方竹生産組合、鏡特産部会) ◎・(一財)夢産地とさやま開発公社	販売額 4,000万円 (5か年平均)	R2	4,000万円	4,337万円	A	1 担い手の確保 ・後継者の育成のための経営基盤確保 2 加工施設の衛生管理 ・HACCP・GAP対応準備	1 担い手の確保 現地検討会(7月) 目慣らし会(土佐山・七ツ洲10月) 2 加工施設の衛生管理 役員会(5月)において消費期限検討のための保存試験(10月予定)計画 保存試験の実施(10~11月) 七ツ洲竹加工組合のヘルパー向けHACCPの講習会の開催(10月)	-万円(2月集計予定) ・R4目標達成率:-% ・対前年同期比:-%	-	(成果) ・栽培暦の配布 ・保存試験の結果から、土佐山四方竹生産組合の消費期限を七ツ洲と同じ7日間(1日延長)とした ・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理については、組合員及びヘルパーに理解が進んだ (課題) 担い手の確保 ・土佐山の担い手確保検討委員会の継続設置 ・生産者・関係機関の役割分担 加工施設の衛生管理 ・HACCP試行のチェック ・生産者の意識啓発 (今後の方向性) ・園地・担い手状況の把握	1 担い手の確保 ・園地・担い手状況把握 2 加工施設の衛生管理 ・HACCP・GAP対応
			R3	4,000万円	4,697万円	S						
			R4	4,000万円								
			R5	4,000万円								
農業	6 「まるごと有機プロジェクトの推進」による中山間地域の振興(高知市) 【実施主体】 ◎・(一財)夢産地とさやま開発公社 ・連携農家	販売額 1.73億円 (H30)	R2	1.93億円	1.78億円	B	1 有機農産物の栽培技術の確立・普及と生産拡大 ・有機農業について技術指導(随時) ・海外有名レストランとの有機万次郎カボチャの取引開始(7月~) 2 加工施設の活用による加工品の開発・製造 ・各種展示商談会への出展(13回) ・日曜市やイベント等への出店(日曜市:~9月まで毎週、イベント等:8回(委託含む)) ・EC販売の促進(自社サイト「とさやまマルシェ」、Yahoo!ショッピング、Amazon、楽天、Qoo10) (対前年同期比:116.5%) ・ひろめモバイルにて新商品「生ジンジャーエール」販売開始(8月~) ・オーガニック食品専門商社の冬ギフトカタログへの採用(11~12月) 3 農家及び公社の所得向上 ・産業振興アドバイザー(課題一貫支援型 全体支援)制度の活用 ・産業振興アドバイザー(課題一貫支援型 個別支援)制度の活用	1 有機農産物の栽培技術の確立・普及と生産拡大 ・有機農業について技術指導(随時) ・海外有名レストランとの有機万次郎カボチャの取引開始(7月~) 2 加工施設の活用による加工品の開発・製造 ・各種展示商談会への出展(13回) ・日曜市やイベント等への出店(日曜市:~9月まで毎週、イベント等:8回(委託含む)) ・EC販売の促進(自社サイト「とさやまマルシェ」、Yahoo!ショッピング、Amazon、楽天、Qoo10) (対前年同期比:116.5%) ・ひろめモバイルにて新商品「生ジンジャーエール」販売開始(8月~) ・オーガニック食品専門商社の冬ギフトカタログへの採用(11~12月) 3 農家及び公社の所得向上 ・産業振興アドバイザー(課題一貫支援型 全体支援)制度の活用(アドバイス会議:5回)	1.29億円(10月末時点) ・R4目標達成率:108.4% ・対前年同期比:114.3%	A	(成果) ・EC販売額が対前年度比116.5%と好調 ・有名レストランや著名ブランドとの新規取引の開始 ・新商品「生ジンジャーエール」の販売開始 (課題) ・各部門の売上の安定化及び拡大 ・経営体制の安定化 ・加工場の増産体制の構築及び衛生管理の高度化 (今後の方向性) ・公益性は高いが収益の見込めない事業(庭先集荷・土づくりセンターの運営等)を収益事業が補完する仕組みづくり ・商品ラインナップの充実と有機農産物の強みを生かしたセールスの強化 ・EC販売の強化および業務委託内容の見直し ・人員・人材不足の解消、職員の育成 ・新基準県版HACCP認証再取得 ・設備導入および加工施設の改修(R5産振補助金(地域産業課題解決支援事業)の活用を検討)	1 有機農産物の栽培技術の確立・普及と生産拡大 ・有機農業について技術指導(公社→農家) ・優良母樹からのユズ苗木の栽培及び土佐山柚子生産組合への供給 2 加工施設の活用による加工品の開発・製造 ・各種展示商談会への出展 ・イベント等への出店 ・EC販売の促進 3 農家及び公社の所得向上 ・産業振興アドバイザー(課題解決型)制度の活用 ・加工場の増産体制構築・衛生管理高度化のための設備導入及び加工施設の一部改修(R5産振補助金(地域産業課題解決支援事業)の活用を検討)
			R3	1.98億円	1.82億円	B						
			R4	2.04億円								
			R5	2.1億円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	7 直販所を核とした鏡地域の活性化 (高知市) 【実施主体】 ◎・鏡村直販店組合「鏡むらの店」	販売額 1.45億円 (R元)	R2	1.5億円	1.46億円	B	1 推進品目の選定と栽培の支援	1 推進品目の選定と栽培の支援 ・栽培品目の決定と実証ほの設置 (チーム会：1回) ・普及所だよりの配布 (2回) ・栽培指導 (9回) 2 販売・経営対策 ・POSデータ分析による課題の検討、取組の確認 (チーム会：5回) ・広報(Instagram)基礎講座 (1回) ・産業振興アドバイザー (課題解決型) の活用によるInstagram勉強会 (3回)	1.19億円 (11月末時点) ・R4目標達成率：86.8% ・対前年同期比：89.6%	B (成果) ・定期的なInstagramによる広報の開始 (課題) ・生産者の高齢化 ・出荷品、販売額の減少 ・販売員不足による毎週定休日の設定 (今後の方向性) ・実証ほの栽培指導および結果の報告 ・Instagram運用支援	1 推進品目の選定と栽培の支援 ・実証ほの栽培指導および結果の報告 2 販売・経営対策 ・POSデータ分析による課題の検討、取組の確認 ・情報発信への継続支援	
			R3	1.5億円	1.34億円	B	2 販売・経営対策 ・販売商品の充実 ・経営体制の強化					
			R4	1.5億円								
			R5	1.7億円								
農業	8 加工品充実による直販所の活性化と食の伝承 (高知市) 【実施主体】 ◎・JA高知市女性部直販部会(直販所「真心ふぁーむらぶ」) ◎・加工組織なるクラブ	直販所売上高 9,200万円 (R元)	R2	9,400万円	8,820.9万円	B	1 直販所「真心ふぁーむらぶ」の販売拡大 ・顧客サービスの充実	1 直販所「真心ふぁーむらぶ」の販売拡大 ・食品表示についての講習会開催 (1回) ・POP掲示について提案 (チーム会：1回) ・直販所経営力向上セミナー受講 (Web：1回) 2 加工組織なるクラブを中心とした加工品製造の充実 ・商品の値上げ検討 (原価計算会：2回) ・POSデータ分析による課題の検討、取組の進捗管理、製造計画の策定 (チーム会：4回) ・食品表示勉強会 (2回) ・食品産業協議会への表示相談 (3製品) ・6次産業化支援アドバイザーによる支援チーム会 (2回)	7,916万円 (11月末時点) ・R4目標達成率：92.9% ・対前年同期比：101.6%	B (成果) ・売上げが、前年同期比で増加 ・他直販所であるクラブが新商品の販売を開始 ・直販所にて野菜や惣菜のお薦めPOPの掲示を開始 (課題) ・生産者の高齢化 ・コロナ禍以前より、売上げが減少 ・なるクラブ商品の値上げ以後、惣菜の売れ残りが増加 (今後の方向性) ・売上げ増加に向けたサポート	1 直販所「真心ふぁーむらぶ」の販売拡大 ・POSデータ分析による課題の検討、取組の確認 2 加工組織なるクラブを中心とした加工品製造の充実 ・HACCP実施に向けた継続的な支援	
			R3	9,300万円	8,958.7万円	B	2 加工組織なるクラブを中心とした加工品製造の充実 ・既存商品の見直し・重点化 ・HACCPと食品表示対応支援					
			R4	9,300万円								
			R5	1億円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
林業	9 高知市の原木増産の推進 (高知市) 【実施主体】 ◎・高知市森林組合	素材生産量 3,056m ³ (H30)	R2	3,100m ³	2,373m ³	C	1 事業地の拡大 ・森の工場の維持、拡大 ・森林経営管理制度を通じた事業地の拡大 ・高知市から提供された森林GIS情報を活用した事業地の選定、確保 2 生産性の向上 ・新たな作業システム導入の検討 ・スケールメリットによる生産性向上のための事業地の集約化 3 作業員の技術力の向上 ・若手作業員のスキルアップ	1 事業地の拡大 ・「森の工場」の維持(3カ所:2,535.93ha) 2 生産性の向上 ・高知市及び高知市森林組合へ県の増産支援策の紹介(7/28) ・高性能林業機械の紹介、導入を打診(7/19)	664m ³ (9月末時点) ・R4目標達成率:34.9% R3年度に現場職員が退職し、R4年度に1人雇用したがまだ作業量が回復していない ・対前年同期比:79% 運送会社が忙しく9月に市場への運搬ができなかったため	D	(成果) ・R5年度に向けて高性能林業機械(プロセッサ)を要望 (課題) ・事業地の確保 ・生産性向上の推進 ・担い手の確保 (今後の方向性) ・高知市から提供された森林GIS情報を活用した事業地の選定、確保 ・生産性向上に向けて、作業員のスキルアップ及び作業員の確保	1 事業地の拡大 ・森の工場の維持、拡大 ・森林経営管理制度を通じた事業地の拡大 ・高知市から提供された森林GIS情報を活用した事業地の選定、確保 2 生産性の向上 ・新たな作業システム導入の検討 ・スケールメリットによる生産性向上のための事業地の集約化 3 作業員の技術力の向上 ・若手作業員のスキルアップ
			R3	3,000m ³	2,392m ³	C						
			R4	3,800m ³								
			R5	4,200m ³								
林業	10 イタダリの外商推進による中山間地域の振興 (高知市) 【実施主体】 ◎・高知県イタドリ生産普及販売促進協議会 ・連携農家	加工品販売額 89.4万円 (H30)	R2	435.3万円	113.9万円	D	1 産地強化 ・鏡産イタドリ苗の他地域への販売 ・加工技術講習会、現地指導等の実施 ・イタダリの品種選抜に関する検討 2 ブランド化の推進 ・ブランド化に向けた高品質生産 ・展示商談会への出展 ・イタドリを活用した新商品の開発 ・一次加工品のHACCP認証取得 3 組織体制の強化 ・高知県イタドリ生産普及販売促進協議会活動支援	1 産地強化 ・JA高知市女性部鏡支部加工部によるイタドリ加工技術研修会の実施(4月:佐川町から3名参加) ・イタドリ一次加工品出荷についての商談(5月:高知県食品工業団地・集落活動センターおおのみきた) 2 ブランド化の推進 ・展示商談会への出展(7回) ・県内量販店の惣菜に採用(R4取引量:約1.3トン) ・イタドリを活用した新商品の開発(H29~:6商品(開発中含む)) ・JA高知市女性部鏡支部加工部による県版HACCP第2ステージ認証取得(8月) 3 組織体制の強化 ・高知県食品工業団地と生産者支援機関(高知市農林水産課・高知農業改良普及所・3地域本部)との協議(8月) ・生産者(JA高知市鏡支所イタドリ生産部会、JA高知市女性部鏡支部加工部、集落活動センター柳野、集落活動センターおおのみきた)による意見交換及び方向性検討会の実施(11月)	242万円(10月末時点) ・R4目標達成率:51.1% イタドリ一次加工品の生産量が少ないため ・対前年同期比:246% 展示商談会等への出展の増や、県内量販店の惣菜に採用される等販売先が増えたため	D	(成果) ・R4年産イタドリ一次加工品は8月時点でほぼ完売 ・生産者間の連携強化 (課題) ・県内栽培地域のさらなる拡大 ・市場ニーズにあった生産量の確保、新たな商品の開発 ・外商に向けた組織体制の強化 ・一次加工品の買取価格の見直し (今後の方向性) ・鏡産イタドリ苗の他地域への販売の推進 ・栽培を始めた地域への個別技術講習、現地指導等の実施 ・中食向けの商品開発の検討 ・生産者と販売者の連携による産地視察型商談の検討 ・生産体制の見直し ・生産者と販売者の折衝支援 ・高知県イタドリ生産普及販売促進協議会の事業推進体制の強化	1 産地強化 ・鏡産イタドリ苗の他地域への販売 ・加工技術講習会、現地指導等の実施 ・イタダリの品種選抜に関する検討 2 ブランド化の推進 ・ブランド化に向けた高品質生産 ・展示商談会への出展 ・イタドリを活用した新商品の開発 ・一次加工品のHACCP認証取得 3 組織体制の強化 ・高知県イタドリ生産普及販売促進協議会活動支援 ・生産者と販売者の連携による外商活動の強化
			R3	623.5万円	192.6万円	D						
			R4	811.8万円								
			R5	1,000万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	11 春野地区の農産物の付加価値向上 (高知市) 【実施主体】 ◎・(有)スタジオ・オカムラ ・連携農家	販売額 6,000万円 (H30)	R2	7,000万円	5,754.7万円	C	1 加工品の販路拡大と新たな商品開発 ・百貨店・高質系量販店等への営業活動 ・展示商談会等への出展 ・新たな加工品の開発 ・メディア等への露出による知名度向上 2 加工に適した野菜等の生産体制の整備 ・加工野菜等の生産体制の強化	1 加工品の販路拡大と新たな商品開発 ・百貨店・高質系量販店等への採用件数 (R4お中元への採用3社4商品(新規1社)、R4お歳暮への採用3社3商品、R5お中元への採用1社2商品) ・展示商談会等への出展 (5件) ・ヘルガモット関連商品数 (12商品) ・ヘルガモットについてメディア等への露出 (3件) 2 加工に適した野菜等の生産体制の整備 ・新品目の栽培試験	5,949万円 (11月末時点) ・R4目標達成率: 103.8% ・対前年同期比: 130%	A	(成果) ・百貨店・高質系量販店等への採用の安定、新規採用2社 ・全国メディアからの取材が増加 (課題) ・原料の供給体制の強化 ・販売拡大と外商強化 ・商品ラインナップの充実と新たな主力商品の普及 ・加工品の増産体制の整備 (今後の方向性) ・栽培技術の周知、連携農家の掘り起こし ・既存取引先を中心とした営業の強化による販売拡大 ・EC販売の強化 ・ヘルガモットを軸にした新商品の開発 ・加工品の増産体制の検討	1 加工品の販路拡大と新たな商品開発 ・百貨店・高質系量販店等への営業活動 ・展示商談会等への出展 ・新たな加工品の開発 ・メディア等への露出による知名度向上 2 加工に適した野菜等の生産体制の整備 ・加工野菜等の生産体制の強化 ・加工品の増産体制の検討
			R3	7,800万円	6,655万円	B						
			R4	8,600万円								
			R5	9,400万円								
商工業	12 竹資源活用クラスタープロジェクト (高知市) 【実施主体】 ◎・(株)コスモ工房 ◎・(同)高知竹材センター ※地域産業クラスター関連 (竹資源活用クラスタープロジェクト)	売上高 7,671万円 (H30)	R2	8,720万円	9,058万円	A	1 原竹の集材体制の確立 ・関連事業者との協議 2 販路開拓及び新商品開発 ・産業振興センターによる事業戦略実行支援 ・工業技術センターとの新商品開発 ・展示商談会への出展 3 加工品製造の生産性の向上 ・生産体制の確立・強化	2 販路開拓及び新商品開発 ・産業振興センター、工業技術センターとの情報共有 3 加工品製造の生産性の向上 ・工業技術センターとの新商品開発	4,657.4万円 (11月末時点) ・R4目標達成率: 73.5% ・対前年同期比: 88.3%	C	(成果) ・工業技術センターとの試作品開発 (課題) ・自動車用竹ハンドルに替わる商品の開発 (今後の方向性) ・工業技術センターとの試作品開発の継続 ・竹ブラシの生産性向上	1 販路開拓及び新商品開発 ・工業技術センターとの新商品開発 2 原竹の集材体制の確立 ・関連事業者との協議 3 加工品製造の生産性の向上 ・生産体制の確立・強化
			R3	9,500万円	7,144.2万円	C						
			R4	9,500万円								
			R5	1.1億円								
商工業	13 防災食の開発・製造・販売 (高知市) 【実施主体】 ◎高知県食品工業団地協同組合の企業など	防災食アイテム数 6銘柄 (累計) (H30)	R2	7銘柄	6銘柄 (累計)	B	1 地域産品を原材料とする防災食の製造・販売 ・保存用大豆の開発に向け、常温試験中 (試験期間 8年、2016年11月～) ・商談出展 東海スーパーマーケットビジネスフェア (7/20) グルメ&ダイニングスタイルショー (9/7) 【大阪】土佐の宴 (9/27) サブポロビール株式会社 取引外食企業合同商談 (9/28) 【名古屋】土佐の宴 (11/1) フードメッセ in にいがた (11/9)	1 地域産品を原材料とする防災食の製造・販売 ・保存用大豆の開発に向け、常温試験中 (試験期間 8年、2016年11月～) ・商談出展 東海スーパーマーケットビジネスフェア (7/20) グルメ&ダイニングスタイルショー (9/7) 【大阪】土佐の宴 (9/27) サブポロビール株式会社 取引外食企業合同商談 (9/28) 【名古屋】土佐の宴 (11/1) フードメッセ in にいがた (11/9)	6銘柄 (11月末時点) ・R4目標達成率: 85.7% ・対前年同期比: 100%	B	(成果) ・保存用大豆の開発は常温試験開始から約6年経過し、順調 (課題) ・試験期間が必要であるため、開発までに年単位の時間を要す (今後の方向性) ・県工業技術センター等と連携した新商品開発の継続 ・商談会への出展による販路拡大	1 地域産品を原材料とする防災食の製造・販売 ・県工業技術センター等と連携した新商品開発 ・見本市等への出展
			R3	7銘柄	6銘柄 (累計)	B						
			R4	7銘柄								
			R5	10銘柄 (累計)								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出发点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
商 工 業	14 中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上 (高知市) 【実施主体】 ◎・高知市 ・高知市商店街振興組合連合会ほか関係団体	中心市街地の居住人口 5,215人 (H30)	R2	5,214人	5,490人	A	1 高知市中心市街地活性化基本計画の推進 ・計画登録60事業の実施 官民が連携し、賑わい溢れ、活力のある中心市街地の形成を推進していく 2 高知市中心市街地活性化基本計画のフォローアップ、計画の見直し ・高知市中心市街地活性化協議会の開催、定期フォローアップ ・第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定に向けた事務の遂行	1 高知市中心市街地活性化基本計画の推進 ○街なかにおけるにぎわいづくり ・ごうち春花まつり (5/3～5) ・おびさんマルシェ (4/17、5/22) ・土曜夜市 (7/2、9、16、23、30) ・テイクアウトフェスタ (7/16、17) ・高知大道芸フェス (10/1、2) ・イルミネーションフェスタ (11/26～1/15) '2 高知市中心市街地活性化基本計画のフォローアップ、計画の見直し ・第14回高知市中心市街地活性化協議会の開催 (5/13) ・令和3年度定期フォローアップ報告を内閣府へ提出 (5/19) ・令和3年度定期フォローアップ報告の公表 (7/1) ・第3回第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会開催 (6/6) ・第4回第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会開催 (9/9) ・第5回第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会開催 (11/8) ・第15回高知市中心市街地活性化協議会の開催 (11/18)	- 人 (次回R5.4月集計予定)	-	(成果) ・新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、実施可能な形でのイベントの開催 ・高知市中心市街地活性化協議会及び第三期計画策定に向けた第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会 (第3回～第5回) の開催 (課題) ・新型コロナウイルス感染症による中心市街地の経済及び人の流れの停滞 (今後の方向性) ・商店街でのイベント等の実施	1 第三期高知市中心市街地活性化基本計画の推進 ・計画登録58事業 (予定) の実施 官民の連携による、賑わい溢れ、活力のある中心市街地の形成 2 第二期高知市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップ ・高知市中心市街地活性化協議会の開催、最終フォローアップ
			R3	5,252人	5,529人	A						
			R4	5,290人								
			R5	5,290人								
		歩行者通行量(17地点・冬季・平日休日2日の合計) 121,330人 (H30)	R2	122,000人	75,866人	D						
			R3	122,639人	104,188人	B						
			R4	123,278人								
			R5	123,278人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	15 日曜市をはじめとする土佐の街路市の活性化（高知市） 【実施主体】 ◎・高知市 ◎・出店者3組合ほか関係団体等	新規出店者数 12件(れんけい市町村除く) (H30)	R2	20件	17件(うち7件が新基準)	B	1 街路市活性化構想の推進 ・街路市開催日の情報発信 ・TSUNAGUマーケット(高知市商工振興課主催) ・学校等の出店支援、販売体験 2 街路市活性化構想のフォローアップ、計画の見直し ・街路市運営協議会 ・街路市活性化推進委員会	1 街路市活性化構想の推進 ・街路市開催日の情報発信 →Facebook・Instagramによる情報発信を実施中 ・TSUNAGUマーケット(高知市商工振興課主催) →毎月2回継続して実施中 ・学校等の出店支援、販売体験 →高知大学が30回、高知農業大学校が2回、高知商業高校が15回、とさ自由学校が1回、田野中学校が1回出店 2 街路市活性化構想のフォローアップ、計画の見直し ・街路市運営協議会 →現時点で3回(4月、7月、11月)開催 今後も継続して開催予定 ・街路市活性化推進委員会 →10月に開催	12件(うち3件が新基準) (11月末時点) ・R4目標達成率：90.0% ・対前年同期比：-	B	(成果) ・街路市活性化構想の推進 ・昨年と比べて学校等の出店の復活 (課題) ・新規出店者の減少(相談件数の減少) (今後の方向性) ・新規出店要件の緩和 ・新規出店募集の広報	1 街路市活性化構想の推進 ・街路市開催日の情報発信 ・学校等の出店支援、販売体験 ・新規出店募集の広報 2 街路市活性化構想のフォローアップ、計画の見直し ・街路市運営協議会 ・街路市活性化推進委員会 3 次期活性化構想の準備 ・通行量調査(予定)
			R3	20件	11件(うち3件が新基準)	D						
			R4	20件								
			R5	20件								
	れんけい小間来客数 14,836人 (H30)	R2	24,000人	4,838人	D	1 れんけいこうち日曜市出店事業の推進 ・各地区のれんけい小間出店 →毎週継続して実施中 →4月に輪番小間をローテーションさせた ・れんけいスタンプラリー →年度内に2回開催予定	1 れんけいこうち日曜市出店事業の推進 ・各地区のれんけい小間出店 →毎週継続して実施中 →4月に輪番小間をローテーションさせた ・れんけいスタンプラリー →年度内に2回開催予定	5,631人(11月末時点) ・R4目標達成率：46.9% ・対前年同期比：-	D	(成果) ・れんけい日曜市出店事業の推進 ・昨年より輪番の出店が増えた ・輪番で出店した方から新規出店の相談があった(11月末時点で未申請) (課題) ・輪番出店者の減少 ・新型コロナウイルス感染の影響が大きい ・来客の減少状況が続いている (今後の方向性) ・輪番出店者の確保 ・れんけい小間の増加や配置の工夫	1 れんけいこうち日曜市出店事業の推進 ・各地区のれんけい小間出店 ・れんけいスタンプラリー(2回開催)	
		R3	9,000人	3,582人	D							
		R4	18,000人									
		R5	24,000人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	16 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進 (高知市) 【実施主体】 ◎高知市、城西館等	高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数(暦年)116万人(H30)	R2	115万人	80万人	D	1 広域観光の推進 ・観光案内システムやツアーリストセンターを活用した県内全域への周遊促進 ・広域観光ルートの造成と効果的なプロモーションの継続	1 広域観光の推進 ・れんけいこうち外国語観光案内システム「tosatrip」の運営 利用者数：6,345人（1月～11月） ・れんけいこうち観光案内所「こうち観光ナビ・ツアーリストセンター」の運営 利用者数：7,375人（1月～11月） ・旅行商品の販売及びセールスプロモーション 旅行会社発行の紙・Web媒体への旅行商品掲載数27商品（4月～9月） ・旅行商品をもとにした動画の制作 2本（ダイジェスト版・本編版）×12コース 12月 撮影終了予定	755,332人（9月末時点）	C	(成果) ・高知市内の宿泊施設の延べ宿泊者数（1～9月）：755,332人 (課題) ・「tosatrip」は、リピート率が10%以下で利用実績も低調 ・中心商店街における観光案内窓口としての認知度低調 ・プロモーション方法の検討 (今後の方向性) ・「tosatrip」は使い慣れたSNSやGoogle等の一般的な検索ツールを利用していることが考えられるため、費用対効果を考慮して次年度以降は休止 ・観光案内所は、民間事業者のノウハウを活用し、サービスの充実や観光案内所の周知等に取り組み、認知度の向上や利用の促進を図る ・制作した動画について、デジタルを活用した効果的な発信方法を検討していく	1 広域観光の推進 ・こうち観光ナビ・ツアーリストセンターを活用した県内全域への周遊促進 ・デジタルを活用した効果的なプロモーションの実施
			R3	117万人	77万人	D						
			R4	119万人								
			R5	121万人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画	
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
観光	17 本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展（高知市） 【実施主体】 ◎・高知市 ◎・(公社)高知市観光協会 ・その他関係団体等	よさこい祭り来場者数115万人(R元)	R2	120万人	-中止	-	1 よさこい祭りの運営体制の充実 ・コロナ禍での開催方法の検討 2 県外のよさこいでの観光PRの強化 ・県外のよさこいの開催状況を注視	1 よさこい祭りの運営体制の充実 ・コロナ禍での開催方法の検討 ・「第69回よさこい祭り」は中止とし、「2022よさこい鳴子踊り特別演舞」を開催 8月10日(水)・11日(木・祝) 会場数：12会場 参加チーム数：96チーム 踊り子数：約6,600人 ・感染防止対策会議への参加 ・運営費への助成に加えて、感染症対策費への助成を実施 2 県外のよさこいでの観光PRを実施 ・「原宿表参道元氣祭スーパーよさこい2022」における観光宣伝 ・「YOSAKOIさせば祭り」における観光宣伝 ・福井市や京都市でのよさこい披露によるPR	-	※第69回よさこい祭りは中止とし、特別演舞として実施	-	1 よさこい祭りの運営体制の充実 ・ウイズコロナでの開催方法の検討 ・全会場での通常開催に向けた取組 ・第70回記念事業の検討 ・高知大学等の教育機関と連携した会場運営支援等の検討 2 県外のよさこいでの観光PRの強化 ・第70回記念大会の積極的な広報	
			R3	120万人	-中止	-							
			R4	120万人	-	-							※特別演舞として開催
			R5	120万人									
	高知よさこい情報交流館入館者数(暦年)56,638人(R元)	R2	57,750人	23,752人	D	1 高知よさこい情報交流館の充実 ・交流館の企画展の充実や「よさこいリターンズ」等のイベントの開催	1 よさこい情報交流館の充実 ・「よさこいとよさこい 巡ってこいよさこいスポット展-」 ・「音の旅人」 武政英策氏が没後40年を迎えるにあたり資料展示会を開催 ・鳴子づくり体験の実施(R4.1~10月末)414人 ・よさこい踊り体験の実施(R4.1~10月末)2,535人	24,468人(10月末時点) ・R4目標達成率：50.8% ・対前年同期比：172%	D	(成果) ・よさこい情報交流館入館者数(R4.1~10月末)：24,468人 (課題) ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う情報交流館の体験メニューの休止による、来館者数や体験者数の減少 (今後の方向性) ・交流館の企画展の充実	1 高知よさこい情報交流館の充実 ・第70回記念事業、開館10周年記念事業の検討		
		R3	57,750人	18,835人	D								
		R4	57,750人										
		R5	60,000人										
18 温泉開発による観光地としての魅力向上(高知市) 【実施主体】 ◎高知市旅館ホテル協同組合	(検討状況を踏まえて設定)	R2	-			1 温泉の開発と活用に向けた検討		-	-	(成果) - (課題) ・地権者の同意を得た土地の確保 ・配湯先の旅館ホテルの確保 ・配湯の低価格化 ・温泉の黒字化に向けた適切な地代の設定と一定の集客 (今後の方向性) ・ビジネスモデルの検討及び検討結果に基づく対応(高知市旅館ホテル協同組合)			
		R3	-										
		R4	-										
		R5	-										

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	19 桂浜公園を核とした桂浜エリアの活性化による観光振興 (高知市) 【実施主体】 ◎・高知市 ◎・(株)はりま家 ・民間事業者	桂浜公園 来園者数 (暦年) 649,096 人 (R元)	R2	750,000 人	384,589 人	D	1 桂浜公園整備 (1) 活性化を図る取り組み ・指定管理によるリニューアル プレオープン(10月) グランドオープン(3月) ・旅行事業者等へのPR (2) 高知灯台周辺整備 ・敷地内再舗装や展望台、ベンチ、 転落防止柵の設置等(土木工 事) ・草花の設置 (3) 橋の小径整備 ・小径の再舗装、手摺の設置、照明 器具更新等 2 船着き場整備 ・観光遊覧船の桂浜寄港地発着運航	1 桂浜公園整備 (1) 活性化を図る取り組み ・リニューアル工事に伴う事故防止策の実施 指定管理による商業エリアリノベーション工事 (9月完了) ※一部店舗の営業開始に併せてプレオープン(R4.10月) 桂浜公園配水管布設替工事(9月完了) 桂浜公園便益施設受変電設備改修工事 (令和5年3月完了予定) ・旅行事業者等へのPR 高知県観光説明会・商談会への参加(6月、10月) ・土木設計 (2) 高知灯台周辺整備 ・土木工事に係る設計(R4年10月～R5年2月 完了予定) ・樹木剪定(R4年10月～R5年2月完了予定) ・土木工事(R5年秋頃完了予定) ・草花(プランターの設置)(土木工事完了後) (3) 橋の小径整備 ・土木工事に係る設計(R4年10月～R5年2月 完了予定) ・土木工事(R5年秋頃完了予定) ・電気設備工事(R5年2月完了予定) 2 船着き場整備 ・桂浜防波堤内へ整備される棧橋について関係者協議	530,264人(11月末時点) ※R4.11.13(龍馬まつり)は 駐車場無料開放としたため、来 園者数カウントに含まない ・R4目標達成率:89.0% ・対前年同期比:176.2%	B	(成果) ・桂浜公園来園者数 (R4.1～11月末):530,264人 (課題) ・滞在時間の短さ (今後の方向性) ・高知灯台周辺整備、橋の小径整備等桂 浜公園内の観光資源の磨き上げ ・プレオープン・グランドオープンに関する情報 発信の強化	1 桂浜公園整備 ・桂浜公園整備基本計画に基づく観光資源 の磨き上げにより全国からの誘客や周遊促 進を図る
			R3	520,000 人	344,547 人	D						
			R4	650,000 人								
			R5	800,000 人								
観光	20 浦戸湾を活用した観光の振興 (高知市) 【実施主体】 ◎・(株)土佐レジン	観光遊覧 船の乗船客 数 1,064人 (H30)	R2	2,000人	551人	D	1 周辺地域の団体や事業者と連携 した遊覧コースの拡充 ・ガイドスタッフの増員、育成 ・観光商品の開発 2 観光客に向けたPR活動 ・観光案内所や空港等でのリーフ レットの設置 ・メディア、SNSでの情報発信 ・イベントへの参加	1 周辺地域の団体や事業者と連携した遊覧コースの拡充 ・桂浜発着コースの安全運航に向けたトライアウトの実施 (6月2回、10月1回) 2 観光客に向けたPR活動 ・SNSを活用した情報発信(HP、Facebook、Twitter) ・TVCMを活用した情報発信(9月) ・リーフレットの設置(こち旅ひろば、市内ホテル、総合保健 協会食堂、わんぱくこうち、高知龍馬空港) ・イベントの実施(こどもの日、サマーシーズン)	883人(11月末時点) ・R4目標達成率:66.2% ・対前年同期比:152.5%	D	(成果) ・コロナ禍により減少していた乗船客数が回 復傾向にある <参考値> H31年度同期比:55.0%(1605人) R2年度同期比:201.6%(438人) (課題) ・桂浜発着コースの安全性向上と安定運 航 ・誘客のための情報発信 ・桂浜護岸整備工事による小型旅客船発 着場整備後の運航に向けた調整 (今後の方向性) ・安全運航のためのトライアウトの実 施 ・効果的なPR方法の検討 ・新係留所の整備に向けて関係部署と協 議	1 周辺地域の団体や事業者と連携 した遊覧コースの拡充 ・新コースの安全な運航体制の確立 ・ガイドスタッフの増員、育成 ・観光商品の開発 2 観光客に向けたPR活動 ・観光案内所や空港等でのリーフ レットの設置 ・メディア、SNSでの情報発信 ・イベントの実施 ・イベントへの参加
			R3	2,000人	824人	D						
			R4	2,000人								
			R5	5,000人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】		
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画	
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析		
観光	21 土佐の偉人を生かした観光の振興 (高知市) 【実施主体】 ◎指定管理者(龍馬の生まれまち記念館:シダックス大新東ヒューマンサービス㈱、自由民権記念館:伊予鉄総合企画㈱)、◎高知市、◎(公社)高知市観光協会、(特非)土佐観光ガイドボランティア協会、長宗我部連絡協議会等関係団体	土佐っ歩への参加人数(暦年)1,195人(H31)	R2	1,220人	785人	D	1 「龍馬の生まれまち歩き～土佐っ歩～」の魅力向上 ・観光客のニーズに対応したコースの見直し・新設 2 土佐の偉人関連イベントの充実 ・坂本龍馬、長曾我部元親などの土佐の偉人関連イベントの実施、情報発信 3 土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上 ・龍馬の生まれまち記念館、自由民権記念館の企画展の充実、PR活動の推進	1 「龍馬の生まれまち歩き～土佐っ歩～」魅力向上 ・土佐っ歩ガイドの実施 ・WEB、パンフレットによるPR 2 土佐の偉人関連イベントの充実 ・龍馬に大接近(春)の実施 令和4年4月2日(土)～5月29日(日) ・龍馬に大接近(秋)の実施 令和4年9月17日(土)～11月13日(日) ・龍馬まつりin桂浜の実施 令和4年11月13日(日) ・WEB、パンフレットによるPR 3 土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上 ・関連施設における企画展・ワークショップ等の開催	764人(10月末時点)	・R4目標達成率:91.7% ・対前年同期比:142.5%	B	(成果) ・土佐の偉人関連イベントの充実 龍馬に大接近来場者数 R4:40,646人 (4/2～5/29:20,464人、 9/17～11/13:20,182人) 龍馬まつりin桂浜来場者数 R4:4,000人 ※雨天により一部イベントが中止 (課題) ・「土佐っ歩」全コースを案内できるガイドの減少 ・「土佐っ歩」は原則3日前までの予約のため、当日飛び込みの対応が難しい ・関連施設における企画展・ワークショップ等の充実	1 「龍馬の生まれまち歩き～土佐っ歩～」の魅力向上 ・観光客のニーズに対応したコースの見直し・新設 ・参加方法等の検討 ・コース案内研修等の強化 2 土佐の偉人関連イベントの充実 ・坂本龍馬、長宗我部元親などの土佐の偉人関連イベントの実施、情報発信 3 土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上 ・龍馬の生まれまち記念館、自由民権記念館の企画展の充実、PR活動の推進 ・関連史跡等の磨き上げ
			R3	1,200人	774人	D							
			R4	1,000人									
			R5	1,350人									
		自由民権記念館常設展観覧者数(暦年)9,739人(H28～30平均)	R2	10,000人	4,282人	D	(今後の方向性) ・「龍馬の生まれまち歩き～土佐っ歩～」魅力向上 コース内容や参加方法等の見直し・検討 ガイド研修等の実施 ・土佐の偉人関連イベント 既存イベントの内容を充実させ、継続していく ・土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上 関連施設での企画展・ワークショップ等の開催 関連史跡等の磨き上げ	5,143人(11月末時点)	・R4目標達成率:56.1% ・対前年同期比:116.9%	D			
			R3	10,000人	5,686人	D							
			R4	10,000人									
			R5	10,000人									
		龍馬の生まれまち記念館入込客数(暦年)45,978人(H30)	R2	40,500人	20,132人	D	(今後の方向性) ・「龍馬の生まれまち歩き～土佐っ歩～」魅力向上 コース内容や参加方法等の見直し・検討 ガイド研修等の実施 ・土佐の偉人関連イベント 既存イベントの内容を充実させ、継続していく ・土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上 関連施設での企画展・ワークショップ等の開催 関連史跡等の磨き上げ	19,730人(10月末時点)	・R4目標達成率:47.4% ・対前年同期比:196.2%	D			
			R3	40,000人	15,214人	D							
			R4	50,000人									
			R5	50,000人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	22 食による観光の推進 (高知市) 【実施主体】 ◎土佐のおきゃく推進会議、◎土佐の豊稷祭実行委員会、(公社)高知市観光協会ほか	土佐の豊稷祭入込客数(高知会場)34,316人(R元)	R2	38,000人	15,128人	D	1 春の「おきゃく」や秋の「豊稷祭」などの食のイベントの定着・充実 ・「おきゃく」や「豊稷祭」など食のイベントの継続的開催 2 食に関する情報発信 ・県内外へのPR活動の推進	1 春の「おきゃく」や秋の「豊稷祭」などの食のイベントの定着・充実 (1)土佐の豊稷祭2022の開催(高知市会場) 開催日：11月5日、6日 場所：高知市中央公園(高知市会場) 内容：美味一堂集結、ドリンクラリー 高知県全体：8会場(9月23日～11月7日) (2)土佐のおきゃく2022の開催 開催日：3月～7月に分散開催(合計24イベント) 場所：おびさんロード商店街全域、ひろめ市場など 内容：おびさんマルシェ(高知の「食」と「アート」に特化した蚤の市)、ひろめdeおきゃく(イベント専用メニューの提供)など	16,545人 ・R4目標達成率：43.5% ・対前年比：152%	D	(成果) 土佐の豊稷祭2022の実施(高知市会場) R4：16,545人(11/5：7,101人、11/6：9,444人) 土佐のおきゃく2022の実施 R4.3月～7月：54,145人 (課題) ・日帰り客が多く、宿泊客数が少ないため、宿泊者数の増加に繋がる手法の検討が必要 ・若い女性の参加が少ないため、若い女性の参加を促す内容や広報の検討が必要 (今後の方向性) ・安心・安全な通常開催を目指す	1 春の「おきゃく」や秋の「豊稷祭」などの食のイベントの定着・充実 ・ウイズコロナで安心・安全な通常開催を目指す
			R3	38,000人	10,852人	D						
			R4	38,000人	16,545人	D						
			R5	50,000人								
	土佐のおきゃく入込客数73,892人(R元)	R2	76,000人	－中止	－	1 春の「おきゃく」や秋の「豊稷祭」などの食のイベントの定着・充実 ・「おきゃく」や「豊稷祭」など食のイベントの継続的開催 2 食に関する情報発信 ・県内外へのPR活動の推進	(オンライン開催のイベント及び、入込客数不明のイベントを除いた数値) ・R4目標達成率：71.2% ・対前年比：-	C				
		R3	76,000人	－一部オンライン開催	－							
		R4	76,000人	54,145人	C							
		R5	80,000人									

2 令和4年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

該当なし

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、18のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称		取り組み概要（目指す姿）	取り組み状況	
高知市	その他	No.4 竹資源活用クラスタープロジェクト		県産竹材を活用した素材生産や製品加工を拡大するとともに、竹材の集荷や一次加工、竹加工品の販売など竹資源を活用した新たな事業を展開し、竹産業の振興と中山間地域における雇用の創出を図る。	これまでの取り組み（H28～R3）	主力商品(竹ハンドル)に替わる新たな製品需要の獲得に向けて、自社商品の開発、BtoCの取組強化による販路拡大と外商強化を行った。（合）高知竹材センターについては、竹ハンドル事業が当初の見込みに至らなかったことを主な要因にH31.2月より一次加工業務を休止している。 新商品の開発や生産性の効率化等に向けて工業技術センターや産業振興センター等、関係機関と連携して支援を行っている。
		関連する地域AP	No.12 竹資源活用クラスタープロジェクト		R4年度の取り組み	竹ハンドルに替わる新商品の開発のため、工業技術センターや産業振興センター、他事業者等と連携した新たな竹材の活用検討